



はーと なび

社団法人 全国腎臓病協議会

170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-20-9 巣鴨ファーストビル 3F
TEL:03 (5395) 2631 FAX:03 (5395) 2831 EMAIL:sougei@zjk.or.jp

2011年3月22日 発行

全腎協「東北地方太平洋沖地震災害対策本部」設置

3月11日、三陸沖を震源に国内観測史上最大の東北地方太平洋沖地震が発生しました。

地震発生直後「祖父が透析日なのに津波の影響で病院に行けない。病院はもちろどこにも連絡がとれない。どうしたらいいか困っている」など救援を求めるひっ迫した携帯メールが全腎協に飛び込みました。

全腎協は、3月12日「東北地方太平洋沖地震災害対策本部」を事務局内に設置し、被災地の情報収集に重点を置き、激震地はもちろん全国からの問合せや相談活動を開始しました。また、被災地で孤立している透析患者の緊急搬送

などを求める要請を、関係省庁や日本透析医会、企業等の関係団体に連日にわたり行いました。

現在も被災地だけでなく直接被災していない周辺の地域においても、医薬品やガソリン不足など、深刻な状況が続いていますが、一部で少しずつ改善にむかっている様子が届きはじめています。宮城県腎協によれば、18日、仙台市は透析患者に対し優先的にガソリンを供給する証明書の交付を開始し、電気、水道も復旧しはじめ、少しずつだが通常透析に近づいてきている、と市内の状況を伝えています。

首都圏でもガソリン不足が深刻 - 大和市腎友会の取組み -

直接的な被害をうけていない首都圏でもガソリン不足が深刻です。

無料の送迎サービスを行っている首都圏の透析施設のなかには、車椅子や認知症のある患者以外の利用者に対し、状況を理解してもらい利用制限をはじめたところがあります。利用者のなかには、患者同士が声をかけあい同一方向の患者を募ってタクシーを乗合い、協力しあう姿も見られます。

大和市内の透析患者を中心に送迎事業を展開する「大和市腎友会」では、このガソリン不足の局面に対し、透析施設や行政と連携して乗

り切っています。

まず、多くの透析患者が利用している透析施設と話し合い、移送車が効率よく動けるよう乗り合わせの変更を調整し、ガソリン供給については、市から福祉有償運送事業者の車両も「緊急車両」扱いにしてもらい、給油を確保して送迎に支障が出ないように対応しました。

首都圏のガソリン不足は消費者の「買いため」が原因とされていますが、透析施設や福祉有償運送事業所等による送迎車のガソリン供給は、今後の大きな課題となりました。

事務局 より

被害の大きかった岩手、宮城、福島、茨城や千葉はもとより、電力会社の計画停電の影響を受けている県組織事務局も、自身の時間短縮や透析回数を減らしながら事務局機能を維持し奮闘しています。全国から絶えまなく応援の声が届いています。みなさんとともにこの困難を乗り越えていきましょう。